

文教大学 父母と教職員の会

会報109号



発行 文教大学父母と教職員の会 発行日 平成25年12月25日
〒343-8511 越谷市南荻島3337
越谷 ☎048-974-8811 FAX. 048-977-7791
湘南 ☎0467-53-2111 FAX. 0467-54-5721
ホームページ <http://www.bunkyo.ac.jp/etc/fubokyo/> e-mail fubokyo@stf.bunkyo.ac.jp



神奈川県 寒川神社

目次

お知らせ	16
教職シンポジウムのお礼	16
新学部紹介	16
純音コンサート	15
お悔やみ	15
長野県支部総会	14
新潟県支部研修会	14
支部派遣教職員報告 その⑪	13
アカペラサークルCYAN (湘南)	13
女子バレーボール部(越谷)	13
学生活動紹介	12
シリーズ「現場から見た 昨今の文教大生気質」②	12
合同研修会報告	11
一都六県支部役員	10
第19回千葉県支部	10
都道府県のページ	9
第46回藍蓼祭(越谷)	9
第29回簗塔祭(湘南)	8
進路問題研修会「報告」	6~7
「親子のための」	5
支部研修会及び行事予定	5
湘南校舎 生涯学習課	5
学内訪問「どんなところ?」	4
全国支部長研修会報告	2~4
平成25年度	

全国支部長研修会報告

平成25年度全国支部長研修会が11月9日(土)、10日(日)の2日間、例年どおり文教大学湘南校舎で開催されました。

日程

- 9日(土)
 1. オリエンテーション 13時30分～
 2. 分科会 14時15分～
 3. 全体会 16時30分～
 - 各分科会からの報告及び質疑応答
- 10日(日)
 4. 教職員による講話 9時30分～

(1)いま、若者どごう向き合いか

文教大学学長 野島 正也

職員研修会 報告

(2)学生支援室を開室して

～相談内容の傾向と対策～

越谷教育支援課課長代行 今井陽子
湘南教育支援課課長代行 山田晶一

1日目(9日(土))

「分科会・全体会」

本年度の分科会も昨年にならない、新支部長と経験支部長それぞれが下段のA～Eの5つのグループに分かれて行われました。

新支部長研修の2グループは、それぞれ小林副会長と萩原事務局次長及び関根副会長と惠羅事務局次長から支部運営マニュアルに沿って支部運営の説明がなされました。

経験支部長研修では地域ごとの課題・問題点、特に新規会員の総会参加率向上や役員勧誘、支部総会の運営方法などを中心に幅広い内容を含みながらの情報交換・意見交換が活発に行われました。その後、全体会を行い、各グループの代表が分科会の議論の概要を全員に報告しました。

新支部長研修〔グループA〕

宮城・茨城・栃木・富山・福井
山梨・長野

新支部長研修〔グループB〕

岡山・広島・香川・福岡・長崎
熊本・宮崎・沖縄

経験支部長研修〔グループC〕

北海道・青森・秋田・山形
福島中通り・福島会津・群馬

経験支部長研修〔グループD〕

埼玉・千葉・東京・神奈川
新潟・岐阜・静岡・愛知・三重

経験支部長研修〔グループE〕

(京都・滋賀)・(兵庫・大阪・奈良)



分科会研修の様子 (グループA)

和歌山・鳥根・山口・徳島
愛媛・大分・鹿児島

分科会でのご意見抜粋

藍蓼会との連携について

・藍蓼会との連携の仕方が分からない。
・藍蓼会に案内を出すようなシステムはあるのか。特に就職について卒業生の体験談など聞ければ大いに参考になる。

父母と教 支部長 報

- ・校友会を通して連携を模索していくのが良いのではないか。そうすればお互いの活動も活発になる。
- ・藍蓼会と合同で総会を開催している県もある。

支部運営について

- ・対象地域が広く総会出席や研修会に参加するための交通費を援助すると支部運営が窮屈になる。支部活動特別援助金の申請を検討している。
- ・支部総会への出席を促すために準備会を開き事前に電話をかけるなどの声かけを行っている。
- ・活動内容が不明との声があり、さらなるPRの必要性を感じた。
- ・支部総会の出欠確認はハガキでの案内に対して、電話で知らせる方法をとっている。県の実情に合わ

- ・せた方法を採用するのが良い。
- ・会員数が多い割に、支部総会・研修会への出席率が低い。どうPRすれば良いか。
- ・支部研修会等への学生の派遣を依頼することは可能か。(事務局：キャリア支援課から紹介してもらっている。)

- ・面積の広い県では支部を分けるなどの方法で総会・研修会への参加者が増えるのではないか。距離的な問題が大きい実情もある。
- ・名簿は総会時に会員氏名、学生氏名、学部名を記載したものを配布している。

派遣教職員について

- ・派遣教職員へ直接依頼することは可能であるが、基本的には事務局を通して欲しい。
- ・人選、人数、時期、講話の内容等の希望は事務局に連絡を。
- ・研修会の講話の内容を教員の専門分野から分かりやすく話してもらいようなものにするとう参加者が増えるのではないか。

会員・役員への勧誘について

- ・新しい役員を加えるためには、先ず会員の増加が不可欠である。
- ・父母教は基本的に保護者全員が会員であるが、会費を納入し、総会や研修会へも参加する積極的な会員を増やす方法を考えるべき。

本部保管の分科会の詳細な議事録は、支部長の皆さまの体験や考察が凝集された得難い資料です。今後の活動の指針として活かされることを期待したいと思います。

「懇親会」

研修会第一日目終了後、17時30分より、学生食堂2階において、懇親会が開催されました。安岡藍蓼会会長をはじめ、渡辺理事長、石田学園長、野島学長他、大勢の教職員の方々にもご出席をいただき、帰りのバス時間ぎりぎりの19時頃まで懇親会が続ぎ、盛会のうちに終了いたしました。

二日目(10日)

「講話」

今年度は、最近の文教大学生気質について、学長とお二人の職員の方々に講話をいただきました。各講話の概要は左記のとおりです。

(1)いま、若者とどう向き合おうか

文教大学学長 野島 正也

教育社会学者でもある野島学長が、36年間の教員生活を通じて考えてこられた若者観について講話をいただきました。

○若者に関するキャッチコピーから若者像を考える。

・「イルカ族」頭は良いが手足が出ない。体を使って動くのが不得手。



支部長による分科会報告

- ・「イワナ族」縄張り意識が強い。
- 人間関係が固定化している。

- ・「地味キャラ」付きあっても面白くない人。反対は「キラキラ立ち」。
- 目障りは排斥したい。

- ・「携帯3回」電話が鳴ったら3回以内に取るのは友達。

- 「親離れ」「子離れ」というが、ほどよい自立と依存の親子関係が大切。

- 現代の若者は、何がやりたいのか、自分が何に向いているのか、などの「自己像」を模索している。

- 限られた世界（家庭・学校）から外集団に関わるのが不安。バイトもよいが取り込まれる場合も。

- マナー、礼儀の規範が不明瞭になり、学ぶ機会が失われている。

- 若者は音楽・映像・造形・意匠の高度な感受性を持ち、情報リテラシーに長けている。

- 若者の自己表現は、内面ではなく外見を重視している。

- 一方でボランティアに対する熱意は高い。東北へいった学生も多い。
- ◇若者とどう向き合うか
- ・人間関係の基本は「キャッチボール」。相手を理解してあげないと

相手はボールを投げ返さない。褒める、うなずくなどの受け入れの表明が必要。

- ・社会教育の基本は見てやって学ぶこと。こういう「もんだ」と語ることも必要。

- ・「幸せ」は元々「仕合わせ」。人と人が繋がり合う文化が大切だ。

(2) 学生支援室を開室して

～相談内容の傾向と対策～

① 越谷教育支援課課長代行

今井 陽子

○ 学生支援室の役割

- ・心理的な問題だけでなく包括的な学生支援。問題解決へ向けての事務窓口、教員との連携。

- ・学生対応に苦慮する教職員、相談先を迷う学生・保護者などを対象とする。

○ 一年間の利用総数4654名

○ 主な相談事例（保護者）

- 成績、母と娘の関係、家計急変による奨学金、就職内定者だが卒業が危ない、留年中だが出席していないようだ、子どもと連絡が取れない等。

○ 主な相談事例（学生）



野島学長による講演

- 友達の輪には入れない、話が噛み合わず孤独、やりたいことが見つからない、

- ・休学中だが復学後の学生生活が不安、友人が自己開発セミナーに参加、性同一性障害、転部・他大学への編入など。

○ 今後の対策

- ・学生への周知、連携・協働の強化。
- ・問題を抱える学生の早期発見。
- ・ピアサポーター制度の導入。
- ・友達づくりの場の提供など。

② 湘南教育支援課課長代行

山田 晶一

○ 学生支援室の役割

- 教育支援課、保健センター、キャリア支援課との連携など。

○ 一年間の対応総数856名

- カルト宗教などの異変に親が気付くポイント（川島堅二による）
- ・生活時間が突然遅寝早起きに。
- ・お笑いやバラエティなどのTV番組を見なくなる。家族団欒を避け、部屋に閉じこもる。
- ・漫画雑誌などを読まなくなる。
- ・酒煙草を止め、飲み会に行かなくなる。

- ・親に反抗的、無関心だったのに、急に優しくなり、手伝いをしたり感謝を口にするようになる。

- どの講話も大変に興味深く、子どもたちとの付き合い方、抱えている問題などを知るよい機会になりました。

- 講演をいただいた野島学長、今井さん、山田さんには感謝です。

- この後、閉会の挨拶、事務連絡の後解散となり、2日間の研修会は無事終了しました。

学内訪問 ～どんなところ？～

「人々の自由な学びを支える」

湘南校舎 生涯学習課

湘南校舎事務局長兼
生涯学習課課長 浜田 芳行

湘南校舎生涯学習課の仕事は正確にお伝えしようとする、お読みになる方々には返って分かりにくくなることと思いますので、ここでは窓口業務を中心に、私たちの仕事を紹介させていただきます。

湘南校舎では大学が行う通常の授業のほかに、学生や卒業生、地域の方々に向けた様々な講座を開講しています。たとえば誰でも無料で受講できる「文教大学公開講座」は、平成25年に第28回目の開催となりましたが、こういった講座を開催する際に、受講生を募集することから、講座終了後に終了証をお渡しするところまで、すべての運営実務を担当しているのが生涯学習課です。

湘南校舎では在学生の皆さんに向けて、各種の資格取得のための試験対策講座も開講しています。ここでも生涯学習課は、学内で資格試験を受験できるように対応を行ったり、受験申込の受付事務や試験の実施、結果の配布などを行っています。その



湘南校舎 生涯学習課の皆様方

ほかに、湘南校舎では英語の習得に向けた長期の講座なども行っていますから、学生の皆さんにもぜひ受講していただき、卒業後の仕事や実生活に役立てていただきたいと思います。湘南校舎では、これらの実用的な講座のほかに、教養講座や趣味講座としても各種の講座が開催されています。こちらは主に地域の方々を受講していただいておりますが、熱心な生徒さんたちの姿には、私たちの方が励まされているような気がします。私たちの部屋は1号館の1階にあります。部屋の中には、資格の取得に向けた参考図書やテキストも常置しており、貸し出しにも応じています。6名のスタッフが、いつでも皆さんをお待ちしています。

平成26年1月～4月

行事予定

1・9	授業再開(越谷)
1・9	授業再開(湘南)
1・18～19	大学入試センター試験(越谷)
1・27	秋学期授業終了(越谷)
1・27	秋学期授業終了(湘南)
1・28～2・3	秋学期定期試験(越谷)
1・28～2・3	秋学期定期試験(湘南)
2・1	地区入試(越谷)
2・1	地区入試(湘南)
2・7～10	A日程一般入学試験(越谷)
2・7～9	A日程入試1期(湘南)
2・18	4年生成績発表(越谷)
2・21	4年生成績発表(湘南)
2・26	A日程入試2期(湘南)
3・6	B日程一般入学試験(越谷)
3・6	B日程一般入学試験(湘南)
3・8	1～3年生成績発表(湘南)
3・10	卒業生発表(湘南・越谷)
3・16	卒業式(越谷)
3・19	人間科学部 11時～11時半 文学部 12時半～13時 教育学部 14時～14時半 卒業式(湘南)
3・31	情報学部・国際学部・健康栄養学部 12時半～ 1～3年生成績発表(越谷)

平成25年度 都道府県支部研修会 開催一覧

支部名	開催日	会場
宮城県支部	12/21(土)	仙台市情報・産業プラザ
山形県支部	H26. 2/8(土)	山形国際ホテル
福島浜通り支部	H26. 3/23(日)	生涯学習プラザ
福島中通り支部	H26. 2/16(日)	市民プラザ「ビッグアイ」
福島会津支部	H26. 2/1(土)	渋川問屋
栃木県支部	H26. 2/22(土)	ホテルニューイタヤ
埼玉県支部	H26. 2/23(日)	栃木市蔵の街散策
東京都支部	H26. 2/16(日)	文教大学学園 旗の台校舎
神奈川県支部	9/22(日)	文教大学 湘南校舎
新潟県支部	11/17(日)	アトリウム長岡
一都六県支部役員合同研修会	10/12(土)～13(日)	ウエスタリアンクラブ ヴェルデの森
親と子のための進路問題研修会	11/24(日)	越谷校舎
親と子のための進路問題研修会	12/1(日)	湘南校舎

4・1～4・5 在学生・新入生オリエンテーション
健康診断(越谷)

4・1～ 在学生・新入生オリエンテーション
健康診断(湘南)

4・7 春学期授業開始(越谷)
入学式

4・9 春学期授業開始(湘南)

4・14 春学期授業開始(湘南)

※この覧は予定ですので、変更になる可能性があります。ご了承下さい。

親と子のための進路問題研修会

親と子のための進路問題研修会を終えて

父母と教職員协会会长 高橋 一弘



昨年まで埼玉県支部と神奈川県支部の行事として実施されていましたが、親と子のための進路問題研修会は、10年の歴史を刻み、近頃の保護者の方々には評価を得ていた研修会です。

そこで本行事の問題点を洗い出し、内容を検討、より効率化を図り、各県ではなく両キャンパスの研修会として、主催も各県から本部に上げ、校友会や東京都及び千葉県支部の協力も得て大きく生まれ変わりました。

狙いは的中し、全国の会員に直接案内をしましたところ、各キャンパスとも昨年を上回る大勢の会員の皆さまが参加する盛大な研修会となり、改めて保護者の方々のお子様の進路に対する関心が高いことを感じさせられ、今後もこの結果に満足せず、さらに反省点を改善し、より良い研修会にしていきたいと考えております。終わりに、開催にあたりましてご尽力いただきました埼玉県、神奈川県各支部の皆様と事務局の皆様、本当にありがとうございました。

越谷キャンパス(11月24日@)

埼玉県支部支部長 福井 伶子

今年も、全国の会員の方に直接お知らせしましたところ、300人も大勢の方の参加がありました。遠くは、九州や東北各県からの参加もあり、有意義な研修となりました。

【特別講演】

①「キャリアは人を磨く」

文教大学野島正也学長の講演は、とても分かりやすく、これからの人生や生き方を考える上で参考になりました。大変好評でした。

②「教員採用の現状と、これからの教師像について」

埼玉県教育委員会採用課の新島譲二氏と新井俊彦氏の講演は丁寧で、心をこめて話して下さいました。

「求める教師像」は、どこの都道府県でも共通だと思います。学生ばかりではなく、保護者も教育委員会の方の話はなかなか聞けるチャンスがありませんので、参考になったのではないのでしょうか。

③「文教大学の進路・就職状況」

就職委員の小倉隆一郎先生にお話しいただきました。厳しい就職状況



パネルディスカッション(越谷)

が続いていますが、大学には、様々なキャリア教育プログラムが用意されています。自分自身の問題として向き合う時期を逸することなく、取り組んでほしいと思います。

【内定者体験発表】

『企業』関根さん、『公務員』小池さん、『教員』根岸さんの3名に、職業を選んだ理由、内定を得るまでの準備や心構え、親にお願いしたいこと等をお話ししていただきました。

成功体験は、学生が3年生に伝え、引き継がれています。

【パネルディスカッション】

パネラーには企業から湯野さん、公務員から濱野さん、教員は文教大卒業生の鯉沼さんをお招きしました。体験発表の学生も参加しました。

参加者数

区分	保護者数	学生数	講師 社会人 教職員 学生	支部役員	事務局	合計
人数	256人	44人	17人	12人	6人	335人

支部・学部別参加者数

		埼玉県	千葉県	神奈川県	東京都	青森県	宮城県	秋田県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	新潟県	山梨県	長野県	静岡県	滋賀県	鹿児島県	
教育学部	保護者	37	11	4	19	0	2	0	3	0	7	1	6	1	0	1	0	1	93
	学生	4	0	1	4	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	1	0	0	13
人間科学部	保護者	27	6	3	2	2	2	1	1	2	5	10	9	2	2	1	5	0	80
	学生	3	0	0	0	1	1	1	1	0	1	3	1	0	0	1	1	0	14
文学部	保護者	36	8	0	3	0	0	0	3	0	4	8	8	6	2	3	1	1	83
	学生	5	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	2	1	2	1	1	17
合計		112	26	8	28	3	5	2	10	2	19	23	26	11	5	7	10	2	300

個別相談参加組数

就職(教員)	就職(公務員)	就職(一般企業)	学業	合計
36組	16組	20組	11組	83組

平成25年度 支部別、学部別の参加状況(実数)

越谷キャンパス



【個別相談】

90人近い方が申し込まれ、10人の教職員にご協力をいただきました。より良い相談を受けるためには、具体的な質問内容をあらかじめご記入していただけると良いと思います。

〔アンケート抜粋〕

- ・私学ならではの学生に寄り添う指導、支援を有り難く思った。
- ・子供のためと思い参加したが、一社会人として仕事に対する姿勢を見直し考える場となった。
- ・進路について悩んでいることがあった。今回の研修会はとても参考になった。(学生)

湘南キャンパス(12月1日⑧)

神奈川県支部支部長 森 弘幸

今年度の進路問題研修会は全国の保護者の方に直接ご案内いたしました。親子合わせて170名を超える参加をいただき、ありがとうございました。やはり、進路問題についての不安が高まっていると考えられます。父母教・高橋会長の開会挨拶、大学代表・椎野副学長のご挨拶をいただきました。

1. 湘南校舎キャリア支援課



就職体験者の発表(湘南)

課長補佐渡辺絹枝氏より「25年3月卒業生の就職率」「現4年生の就職内定率」「4年生の動向」「保護者の皆様へ」についてお話をいただきました。

2. 特別講演
昨年と同様、(株)ページメーカー代表取締役 高島博志氏より「最新の就職事情」を伺いました。

3. 就職内定者の体験発表
今年も内定者5名の発表がありました。キャリア支援課の提案により、うち2名は分科会(公務員)での、体験発表となりました。

公務員の分科会においてサプライズがあり、現役公務員の高橋会長より、ご自身の経験・公務員採用についてのお話がありました。

4. 個別相談
今年は、個別相談の希望者も42組と多く、相談内容によって情報広報・経営情報・情報システム・国際学部・教育支援課・キャリア支援課と6つの相談窓口を設け、教職員7名による個別相談となりました。

5. アンケート結果より
特別講演・個別相談とご好評頂き、ありがとうございました。来年度も皆様のご要望・ご意見を取り入れ、進路問題研修会を開催したいと考えています。また、この研修会を役立てていただき、一名でも多くの学生が内定を手にすることを願います。

〔アンケート抜粋〕

・社会、時代の変化を感じながらも、「どのように対応して良いのか」の不安が少しなくなった気がする。

・大学生にもなって個別相談を受けるか悩んだが、事前にデータを用意して下さり、具体的な話を聞かせていただき良かった。

・参加して多くの知識を得た。今のうちから興味を持ち、何をしたいのか見つけていきたい。(学生)

参加者数

区分	保護者数	学生数	講師・教職員	学生	支部役員	事務局	合計
人数	129人	43人	20人		21人	3人	216人

支部・学部別参加者数

		神奈川県	千葉県	埼玉県	東京都	宮城県	山形県	福島県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	山梨県	富山県	長野県	静岡県	広島県	福岡県	
情報学部	保護者	32	6	4	2	1	3	1	2	0	4	6	5	0	1	3	8	2	1
	学生	10	3	1	1	0	3	0	0	0	1	2	2	0	0	2	2	2	0
国際学部	保護者	5	0	4	1	1	1	0	2	2	4	3	4	2	0	0	4	0	0
	学生	1	0	1	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	2	0	0
健康栄養学部	保護者	5	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0	0	0	4	0	0
	学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	2	0	0
合計		53	9	11	4	2	7	1	4	3	13	14	16	2	1	5	22	4	1

個別相談参加組数

就職・学業相談	42組
---------	-----

職種別講演会参加者数

一般企業	98人	教職・公務員	16人	合計	114人
------	-----	--------	-----	----	------

平成25年度
支部別、学部別の
参加状況(実数)

湘南キャンパス



第29回 聳塔祭「ココロ、ハズム、瞬間。」

— 湘南キャンパス —

10/26(土)~27(日)



神奈川県支部 校章入りどら焼き 完売です



台風一過の晴天に聳える聳塔



野外ステージと観客のみなさん



調理サークル「飯」 コロッケをどうぞ!



和太鼓サークル「楓」



野外のベンチで休憩

第29回聳塔祭が「ココロ、ハズム、瞬間。」をテーマに、10月26日、27日の2日間行われました。台風27号直撃の予報に、一日目は午後からの開催となりましたが、学生の熱意がその瞬間を演出してくれました。

タレントトークショー(俳優)
 沢村一樹さん
 コンサート(体育館大アリーナ)
 ielkoの皆さん
 お笑いライブ
 THE GENSEEの二人

特に、バラエティーでも活躍されている沢村一樹さんのトークショーには、朝早くから整理券を求める長い列ができました。

また、昨年に引き続き販売された神奈川県支部の焼印入りどら焼きは、2時間で400個完売という人気ぶりでした。支部の皆さんのお揃いの法被も、とてもよくお似合いました。

今年初めての企画として、埼玉県支部の役員研修会が同時に開催されました。今年4年目となる教職員による「小さな音楽会」にもお越しいただきました。

台風一過の晴天の元、内庭はフリーマーケットや模擬店で賑わい、地域の方々との交流も深まる2日間となりました。

第46回 藍 蓼 祭「colorful」

— 越谷キャンパス —

11/1(金)～11/3(日)



文化祭の王道～展示です



正面玄関の看板



何を歌ってるのかな？



野外ステージでの発表



おいしく作ってます！



まるで保育園！

越谷キャンパスの藍蓼祭は、11月1日(金)～3日(日)にかけて開催されました。第46回目を迎える今年のテーマは「colorful」。

『一人一人の思いが藍蓼祭をよりカラフルなものに輝かせ、彩りある最高の藍蓼祭となってほしい』という思いを込めたテーマです。

学内では「かほちやの山車」が乳幼児を乗せて動き回り、楽しそうな子供たちの声が聞こえていました。野外ステージでは「わくわく！メガあみだ大会」や新企画の「レーザーショー」も開催され(写真がないのが残念です…)、盛り沢山の企画になったようです。

体育館のメインアリーナでは、「the telephones」や「The Mirraz」という二つのグループを迎え盛り上がりがありました。

毎年の事ながら、学園祭を開催するには実行委員をはじめとして、参加する各クラス・部活・有志のメンバーなどが早い時期から準備を始め、大勢の学生が携わっています。その成果は十分に発揮できた学園祭であったと思います。

来年も期待しています!!

都道府県支部のページ

第19回 千葉県支部の巻

菜の花畑から

千葉県支部長 齋藤 浩二



「ふなっしー」

一度は聞いたことがあると思います

が、千葉県船橋市非公認のゆるきゃらです。非公認である「チーバ君」より有名人です。

皆さんも一度は行ったことがある、行ってみたいと思っている「東京デイズニerland」。「東京」とありますが、実際は千葉県浦安市にあります。また、これもご存知の「東京スカイツリー」。決して千葉県にあるとは言いませんが、高さ634mもあり、この高さは千葉県で一番高い「愛宕山」の408mよりも高く、東京スカイツリーの展望回廊に登れば、千葉県をすべて見下ろすことが出来ます。

このような立地にある千葉県に、文教大学父母と教職員の会千葉県支部があります。

千葉県支部には、約750の学生が在籍しており、埼玉県、神奈川県、

東京都支部について4番目の規模となります。その千葉県支部の支部長に昨年6月に就任いたしました。それまでは、子供の学校関係いわゆるPTAなどに顔などを出したことも無く、そのような活動にはまったく関心はありませんでした。

3年半前、子供が文教大学に入学した年に一日大学へ行き、学食で何も知らずに昼食を食べていた時に、千葉県支部の役員の方に誘いを受け、名前を書いたのが父母と教職員の会との出会いの始まりでした。その当時は、下の



県花：菜の花

子どもの部活動の関係でほとんど父母と教職員の会の活動には参加できない状況で、時間のある時にだけ参加する程度でしかありませんでした。

このような状況でありながら、前任の支部長をはじめ、現職の役員、OBの方々の協力を得て、これまで一年半のあいだ支部を運営することが出来たことに感謝いたします。

支部長に就任して初めてのイベン

トが一都六県支部役員合同研修会でした。これは、関東近郊の支部役員を対象に行う合同研修会で、学校法人文教大学学園八ヶ岳寮に一泊して研修と親睦会を行いました。

その時は千葉県支部が幹事県として研修会の計画立案から、申請等を支部の役員で手分けをしながら行い、支部として一致団結して満足のいく結果が得られ、役員全員がとても喜びました。

前には、千葉県支部で秋期研修会を行いました。大学より先生を招き、講演・個人面談を行い、懇親会では先生と父兄の親睦をはかりました。

今年6月の一日大学。3年前に食堂で声をかけてきた役員の方の様に、新たに千葉県支部の役員として支部の活動に協力して頂ける人を求めて多くの役員が千葉県会の会員の方々に声をかけてまわりました。

はじめて声を掛けられた時、ほとんどの人達が不安を覚え辞退いたしますが、実際役員になって一年間活動を行っている、自分の時間を犠牲にして支部の活動を行うデメリッ

トよりも、文教大学の父母と教職員の会千葉県支部の役員として、千葉県の会員の皆さんに自分たちの思いを伝える支部活動、役員一同団結して事に当たる楽しさ、新しい仲間との交流等々、やってみて分かった役員の楽しさを新しい人たちと分かち合いたいという思いをもって声を掛けています。

支部総会・研修会では、今年新たに文教大学学長に就任された野島学長を迎え、50名ほどの研修会となりました。

現在、父母と教職員の会千葉県支部に加入されている会員の人は約450名おります。

今後いかにしてこの会員の皆さん、支部の活動に関心を持って、ご賛同頂けるかが私たち役員に課せられた課題ではないかと思えます。

その一歩として、新たに会報「菜の花通信」を発行いたしました。大卒と支部会員との距離を少しでも縮められたらとの思いで作りました。今後継続していきたいと思えます。



一都六県支部役員合同研修会報告

25年度

東京都支部支部長 横山 和義

父母教秋の恒例行事、一都六県支部役員合同研修会が、箱根小涌谷にある「ウエスタリアンライフクラブヴェルデの森」(藤田観光グループの会員制ホテル)を会場に、10月12日(土)、13日(日)の日程で、55名(文教大学関係者含む)という例年になく多くの参加者を得て開催されました。

通常、この研修会の会場は、文教大学学園の八ヶ岳寮ですが、たまには別の場所で行うのも良いだろう、宿泊料は多少高くなるものの、洗面用具・寝間着持参不要、食事の後片付け不要等、普通の旅行並みの研修会をしてみたいということから、東京に近く交通の便も良い天下の景勝地、箱根が選定されました。

この時期の箱根は紅葉には若干早かったものの、秋の行楽シーズン真っただ中の三連休。更には天候にも恵まれ、沢山の観光客で混雑し、渋滞にも巻き込まれましたが、ほぼ予定通りの時間に開始することができました。



研修風景(渡辺理事長の講話)

研修会は最初に本年の当番支部である東京都支部長(筆者)の挨拶があり、その後、文教大学学園理事長渡辺孝氏の「日本経済の動向と課題」(アベノミクスのその後)と題する講演が行われました。その内容は、①「戦後日本経済の歩み」(敗戦から高度成長期、石油危機を経て低成長時代へ、バブルの発生と崩壊)、②「日本のデフレ問題」(デフレとは何か、デフレの問題と要因)、③「アベノミクスの解説」(二本の矢とは、またその政策)、④「日本銀行の金融政策」(日銀の金融緩和政策を巡る論

争)、⑤「危機的状況にある我が国の財政」(先進国でも例を見ない巨額の赤字、税収が伸び悩む中で一貫して膨張を続ける社会保障費、消費増税)、⑥「急速に進む少子高齢化」(生産年齢人口の減少は経済停滞の大きな要因になっている)であり、我が国の経済状況のみならず、世界の経済状況についても理解、知識を深めることができました。

交流会(懇親会)は食堂で開催され、バイキング形式で他のお客さんと一緒でしたが、父母教としてまとまった席を用意してもらいました。顔馴染みの人、初対面の人それぞれですが、他支部の役員や理事長をはじめ大学関係職員と父母教の活動について活発な情報交換や意見交換等を行い、所期の目的は十分達せられたと思います。

交流会後は二次会としてカラオケを行いました。自由参加であったものの、ほぼ全員が参加したように思いました。歌のうまい人もそうでない人も一生懸命に熱唱し、会場の拍手を浴びていました。渡辺理事長にもご出席いただき、自慢ののどをご披露いただいたり、父母教キャンデ



東京都支部参加者の皆様方

イズ2組が同時に共演するなどして、大いに二次会は盛り上がり、楽しいひと時を過ごしました。

本研修会は、関東地方の一都六県の各支部役員が一堂に会することにより、父母教活動の充実、発展のための方策等について意見交換等を行うほか、教養を高めるための研修受講等を通じ、役員相互の懇親を深める等、有意義な研修会でありました。最後に一言、理事長の経済についての講演は、経済についての知識、理解を深めることができ、また過去から現在、将来に至る経済状況を知る上で大変勉強になりました。各支部の研修会にお勧めします。

シリーズ

現場から見た昨今の文教大生気質②

文教大学湘南キャンパスの
大学生の「気風」について

文教大学副学長・国際学部

教授 椎野 信雄



二期目の副学長を引き受けて、はや9ヶ月になりました。大橋前学長の下で副学長を引き受けたのがもう4年前のことで、その時のもう一人の副学長が、現学長の野島正也先生でした。野島先生が、学長に就いてから、再度、副学長を務めさせていただいております。

その野島学長が、このシリーズの前の分で、大学生の「気風」について、というタイトルで、このシリーズを開始しております。そこで「気質」と「気風」では何か違いがあるのかと思って、調べてみますと、

気質・気風・気性・気立て・気持ち・気分などの言葉があり、また心の傾向を表す言葉として「心持ち・心立て・心ばえ・心ばせなどがあると分かりました。では、気と心ではなにが違

うのかと思うと、「気心」という言葉があり、「気は心」という言い方もあり、実質的に「気」と「心」ではあまり違いがないと理解しました。それでは「気質」と「気風」の違いはと考えてみますと、「気質」は心理学的用語で遺伝的な性格傾向のことを意味するようで、他方で「気風」は、同じ集団の人たちが共通に持っていると思われる気質のことを指すようなので、ここでは野島先生に倣って「気風」について書いてみることにいたします。

文教大学の学生という集団に共通する「気風」全体について語ることもできますが、ここでは私が日頃接触のある湘南キャンパスの特に国際学部の学生集団の「気風」について、思っていることを書かせてもらいます。私が文教大学湘南キャンパスの国際学部に着任したのは、1996年のことです。もうすでに17年も前のこととなります。湘南キャンパスもその間に、短期大学部が改組し、健康栄養学部が誕生し、国際学部も学

科改組があり、来年度からは経営学部が新たに発足し、情報学部の学科も改組することになり、湘南キャンパスの学部学科に学ぶ学生さんもある意味、大きく変わってきました。

現在の大学生の特徴の第一は、失敗を恐れる・打たれ弱い・夢がない・ルール順守などの特徴があると言われる「ゆとり（教育）世代」が中心を占めていることでしょう。ゆとり教育がどのような世代を作ってきたのかは分析が難しく、直接の因果関係を見いだすのは困難だとは思いますが、以前の世代と比べて、ゆとり世代の現代の学生さんの気風が変わってきたことは事実であります。

そのなかで「ゆとり世代」論に解消できない特徴が湘南キャンパスの学生さんには見いだせるのではないかと思っています。それはなにかと言くと、「ひとなつつこい」子が多いということなのです。少人数教育を謳っている教育体制の故もありますが、一つの傾向として先生と学生の距離が非常に近いことがあります。このことを自覚していない学生も多いのですが、自覚せずとも実際のところ、学生と教員の距離が、非常に

親しい距離にあるのです。

この親しい距離で学生さんを見てみると、素直で率直で、すれていなく、変な構えがなく、気負いがいい特徴があります。このことは逆に言うとうと、自信がなく、常識も無く、押しが弱く、子供っぽいと表現することもできるので、そうではなく、結構前向きであり、こつこつタイプであり、構えなくどこへでも行ける、という特徴が見え隠れしているのです。

こうした気風を持つ学生を相手に、教育を施すということは、実は教育者にとって非常に「怖い」ことではないかと思っております。というのも、よい教育の効果も、悪い教育の効果も、すぐに直接に学生さんに表れるからこそ、教育のやりがいもあり、教育の成果が直に表れる学生さんを前に、教職員側も、気の引き締まる思いも強くなるのです。文教大学が「教育」の文教大学と言われるのも、「教育学部」や「教職課程」があるからだけでなく、以上のような「教育」効果がすぐに表れる学生さんとキャンパスで、接している現実があるからではないかと思っております。

*** 学生活動紹介 ***

女子バレーボール部 (越谷校舎)

教育学部 心理教育課程

3年 大久保 里美

こんにちは。私たちは、越谷キャンパス女子バレーボール部です。今回、文教大学父母と教職の会の会報に私たちを紹介いただき、誠にありがとうございます。

現在は、1年生4名、2年生4名の計8名の少人数となっております。活動日・活動場所は、月曜日は第二体育館、水曜日は学内体育館、土曜日は第二体育館または学内体育館で週3回活動しております。

大きな大会としては、関東大学春季リーグと関東大学秋季リーグに2回出場しています。現在は四部リーグに属しております。主には、6人制となりますが、9人制の大会にも出場しており、9人制を6人制に活かしています。技術的な成長はもちろんのこと、精神的にも成長していくことを目指しております。

自分たちの力で運営していく大学の部活ですが、私たちはたくさんの方々にお力を貸していただき、活動



女子バレーボール部の皆様方

させていただきます。監督・顧問・OG・大学関係者の方々・父母と教職員の会の方々のお力添えがあり、初めて部活動が成り立っています。私たちにいかかわってください。私たちがへの感謝の気持ちを忘れずに、恩返しをしていけるよう、今後も練習に励んでまいります。また、私たちは「父母のための一日大学」などの父母と教職員の会のお手伝いを度々させていただいております。保護者の方々と大学をつなぐ懸け橋として、責任を持ってお手伝いさせていただきます。これからも、温かなご支援をよろしくお願致します。

アカペラサークルCYAN

(湘南校舎)

情報学部 広報学科 2年

代表 福本 俊介

私たちアカペラサークルCYANは、楽器を使わずに声のみで音楽を演奏、表現する「アカペラ」に日々取り組んでいます。活動内容としては、江の島にて夏、クリスマス、バレンタインと年に3回行っている「江の島LIVE」。湘南校舎の学園祭での「学祭LIVE」。その他イベントLIVEと、それに向けた練習を行っています。

私たちはサークル内の繋がりはもちろん、サークル外との繋がりをとても大事にしています。前述しました江の島LIVEでは、関東圏内の他大学で活動しているアカペラサークルに出演依頼の声をかけ、共にイベントを成し遂げることで交流や、近隣の老人ホーム等の介護施設での演奏披露、また、定期的に中学校にサークル員で出向き、演奏の披露や合唱指導を行っています。他にも様々な場所からお声掛けをいただき、各地でのLIVE活動を通じた地域とのふれあいを積極的に行っています。

10月末、湘南校舎の学園祭に「学祭LIVE」という形で参加させていただきました。このLIVEは3年生の引退LIVEでもありました。そのためサークル



アカペラサークルCYANの皆様方

ル員皆で団結し会場設営や運営を行い、演奏の面では授業の合間や放課後に夜遅くまで学校に残るなどして時間を作り、多くの練習を重ね当日に備えました。迎えた本番当日、日頃の努力の甲斐あつてか多くのお客様に恵まれ、演目を終えると共に温かい拍手を沢山いただき、大成功という形でやり遂げ、無事に3年生方を送り出すことができました。観客あつての演者、多くの方に支えられていることを実感しました。

現在私たちは1、2年生総勢75名一丸となって日々切磋琢磨しております。これからも温かく見守ってくださいと幸いです。

支部派遣教職員報告

その⑪

新潟県支部研修会報告 11月17日

就職活動と家族

人間科学部 臨床心理学科

准教授 石橋 昭良



新潟県支部研修会に初めての参加でした。研修内容は、個別相談、Uターン情報、大学の

講話、学生体験談、情報交換会など盛りだくさんでしたが、小林会長をはじめ役員の方々の手際よい運営により滞りなく進行了ました。何より事前準備にあたり関係者の方々のご苦勞を察すると頭が下がる思いです。

担当した個別相談では、教員、公務員、企業と就職にかかる幅広い相談内容であり、就職を控えた子供を持つご父兄の悩みや不安を伺い、限られた時間の中で焦点を絞ったアドバイスとなりました。さらに講話では、教員・公務員・企業の採用までの流れと大学の支援活動などの取組みを説明し、昔と今の就職活動の違いを解説しながら、就職を控えたお子さんを持つご家庭での支援をお願いしました。

その後、「私の就職活動」と題して

就職の決まった現4年生から体験談の報告がありました。4年生と私は事前に打ち合わせをしていますが、2人は就職活動を振り返って、「内定が決まらず苦しい時期に心理的・経済的に親が支えてくれて有り難かった」「活動中の不安や辛さを受け止めてもらい、親のアドバイスが支えになり、家族の有り難さを感じて感謝している」ことが語られました。実は私が講話の中で強調したことの一つが「お子さんが迷った時、困った時が親の出番」であり、4年生の体験談が奇しくもそれを裏付ける形となったのです。

親子関係が希薄になったと言われる昨今ですが、「就職」という人生の一大事に直面した時、自ら考え決定することを尊重しつつ、困ったときは家族の協力が必要なのです。この機会に社会経験の乏しいお子さんに親の仕事観を伝えたり、直接言いづらければメールを使うなど対話を工夫し、厳しさや温かさを持って乗り切っていたいただきたいと思います。

長野県支部総会報告 9月15日

大きな県の支部総会

情報学部 情報システム学科

教授 石井 信明



この度、文教大学父母と教職員の会長野県支部総会にお邪魔をする機会を得ました。長野県は個人的にも思い出があり、喜んで参加をさせていただきました。

当日はあいにく台風が接近中で、予定を適時変更しながらの開催となりました。支部長さんをはじめ、主催者の方々のご苦勞なされたことと申します。

総会では、新役員の方々の選出に続き、ブロック別の協議会を行いました。長野県は大きな県のため、南北にブロックを設けているとのこと。ブロック別に会員の方々が集まり、大変熱心に打ち合わせをしている姿が印象的でした。

大学からは、越谷校舎から、青山先生、森本先生、湘南校舎から、キヤリア支援課の西澤様、情報学部石井の講話がありました。講話では、魅力的な講義への取り組み、学生を

取り巻く昨今の経済環境、就職活動への影響などの話があり、参加者の皆さんには、大変熱心に話を聞いていただきました。

それに先立つ個別面談では、多くのご父母が学生の就職について不安を持たれていることを、改めて知ることができました。就職活動への大学からの支援、就職活動に当たっての留意点などの相談はこれまでもありました。今回は特に、現在1、2年生の学生をお持ちのご父母から、企業の採用スケジュール変更に関するご質問が目立ちました。経済界が再来年からの変更を予定している採用スケジュールの後ろ倒しについて、実際のところどのような影響があるのか、不安をお持ちのようでした。大学のキャリア支援として、これらの情報をきめ細かく収集し、お伝えしたいと考えています。

総会後に、懇親会がありました。ここでは参加者の方々と話をする機会があり、大変有意義な時間を過ごすことができました。



お悔やみ

市村元会長のご逝去を悼む

東京都支部支部長 横山 和義

故市村政信さんは父母と教職員会の会（父母教）会長や東京都支部支部長を歴任し、父母教の運営、発展に多大の貢献をされました。その市村さんが去る10月22日ご逝去されました。享年73歳。市村さんとの最初の出会いは、平成10年の春、二女が文教大学に入学し、旗の台校舎で開催された東京都支部の定期総会兼研修会後の懇親会の時でした。その後、東京都支部役員として市村支部長のもと、共に活動しましたが、転勤のため支部役員を辞し、ついには父母教も退会しました。ところが、支部の役員不足のため、請われて今度は賛助会員として再度父母教会員になり、引き続き役員をしていた市村さんと一緒に活動することとなりました。

日々の活動とは別に、東京都支部にはOB役員で組織する楽史味会（たのみかい）という会があります。子の卒業により退会しても縁を大切にし、年に1〜2回集まり旅行等を行い、親睦をはかるという趣旨により出来た会です。市村さんはその人格、識見を買われ、発足当初から会長を務めておられました。

市村さんは保護司を委嘱されるなど

地域の名士でもありました。楽史味会の行事として府中市の東京競馬場で競馬体験会を2回行いましたが、市村さんのおかげで素晴らしい体験が出来ました。最後にお会いしたのは、お亡くなりになる丁度1年前の10月でした。一都六県支部役員合同研修会の帰途、急遽お見舞いを兼ねてご自宅をお訪ねしたのでした。思っていたよりお元気でしたので、市村さんが無理なく参加できるように楽史味会の例会を開催しようと話し合っていた矢先のご逝去の報でした。二度と帰らぬ遠い国へ旅立っていかれた市村さん。色々ご指導いただきありがとうございます。私たちは市村さんが築かれた父母教の良き伝統を守り、益々の発展に努めます。心よりご冥福をお祈りいたします。

田中純先生のご逝去を悼んで

教育学部 音楽研究室 教授 柳田 孝義

教育学部音楽研究室の田中純先生は去る3月22日、64歳の若さで逝去されました。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

田中先生が大腸がんを発病されたのは7年前でした。以来数度の手術のほか、色々な先端的治療を続けて一時期は肝臓に転移したががんが消えたようだと嬉しい知らせもありました。若い時から頑丈な体格で体力もあり、抗がん剤の副作用にも耐えて昨年の夏休み前までは元気に学生指導にあたっていましたので、研究室の同僚としては安心していただけに残念というほか言葉もありません。

先生のお人柄についてご承知の方々は「優しく、明るい先生」と口をそろえて仰います。学生にも人気があり、最近の若い学生とは親子以上に年の差があるにもかかわらず「純先生」と呼ばれるのが常でした。

また父母教の仕事も若いころから担当し、発病の前は就職委員長としても活躍しながら研究室の外でも多くの教職員、父母、同窓生と関わりをもって

おられました。その分好きなお酒が余計に進んだのかもしれませんが、普段健康管理は人並みに気を配っていたようにも思います。

5月8日に目黒の八芳園でお別れの会があり、卒業生も大勢献花に訪れてくださいました。また逝去されて丁度半年後の月命日にあたる9月22日には都立大学駅近くの音楽ホールで田中先生ご自身が遺言で企画した「純音コンサート」が開かれました。この演奏会は先生が生前に思い出のある曲を選び、それが当音楽研究員の教員のほか目黒在住の音楽仲間によって演奏してほしいという願いがあつたものを実現したものです。

本学がまだ女子大時代からの長いご勤務でしたので非常に多くの貢献をされました。想い出は尽きませんが、心からの感謝を申し上げ天国での安らかな眠りを祈っております。

合掌



在りし日の市村さん(右)(左・筆者) 一都六県支部合同研修会の往路・武田神社にて

純音コンサート

2013.9.22
18:45 開場 / 19:00 開演
めぐろパーシモンホール 小ホール

平成25年3月22日に他界いたしました田中純を偲び、コンサートを開催する運びとなりました。第1部は、40年間勤務しておりました文教大学の先生方、高校時代よりの友人の演奏トモして第2部には、故人から息子への時代へと…

目黒に生まれ育ち、9月7日には満65才のバースデー!!22日は半年後の月命日です。ご縁があり地元のパーシモンホールに於いて、故人が望んだ方々に望んだ曲を演奏して頂ける素晴らしい企画が実現します。プログラムは当日をお楽しみに…

身近な経営学部

経営学部学部長(予定) 坪井 順一



4月から経営学部が新設されます。学部の特色は、既存の経営学部ではまだ数が少ない

公共経営領域を学べることです。公共経営は、公務員をめざす人たちを対象として、公務員の試験対策や茅ヶ崎市の議会と提携した実践的なカリキュラムを作っています。また、会計領域では、経営情報学科で培ってきた税理士・公認会計士の受験を目的とした教育に力を入れています(公認会計士短答試験や税理士試験の合格者を出しています)。経営学部は文教大学の人間愛を経営の場で実現するために人間尊重の経営を標榜しています。高い人間性や教養を身につけた学生を育てることが目的です。経営学部は同窓入試を行っていません。文教大学の卒業生のご子息、または兄弟が文教大学を卒業(在学)していただければ受験資格があります。今年度はこの制度を利用して10名近くが合格しています。新しくできる経営学部を是非ともよろしくお願いいたします。

教職シンポへのご支援のお礼

教育学部 体育専修 准教授 佐藤 正伸



11月9日、越谷校舎にて、教職希望学生を対象にし、教育界で活躍する先輩方によるシンポジウムを開催しました。教職の使命感や職業観はもちろん、「教員養成のトップランカーである文教大学で学んでいる」という気位、高じて母校愛をも培う機会として開催しています。

開催にあたり、父母教からご支援を頂戴いたし、深くお礼申し上げます。ご厚志は交流会開催に活用させていただきます。先輩方と学生との絆づくりをさせていただきます。

今回のテーマは「たゆまず学び続ける教師を目指して」でした。学生時代に、如何に広く深く学ぼうとも、約40年におよぶ教師人生を歩むに十分な知識や技能を習得することは不可能です。生涯、「良い先生」であり続けるためには、正に「たゆまず学び続ける」ことが必要です。もともと、「何を、どのようにして」が問題です。そこで、先輩方から「どのような職務上の困難にぶつかり、どのように越えてきたか」を、また「そのために学生

時代に学んで欲しい、身につけて欲しいこと」などをお話ししていただきました。

参加した学生は、皆、「学校の先生という仕事」の厳しさや大変さを知り、そして自分の夢の甘さを感じていました。同時に、その社会使命、ひいては真のやり甲斐に気づき、心機二転、「良い先生になる」という志しを確固としました。ある女子学生は、「朝、『面倒だから、サボっちゃおう』と思った自分がとても恥ずかしいです」と感想に記しました。彼女は今後の学生生活を充実したものとし、必ずや「良い先生」として、生涯、教壇に立ち続けることと思えます。

大学では、教職に限らず、学生の人生設計のためさまざまな支援をしています。今後とも、ご支援、ご協力を賜りたく、お願い申し上げます。



シンポジウムの様子

編集後記

お正月を迎えるにあたり、今回の表紙は寒川神社です。湘南キャンパスから約5km、お隣の高座郡寒川町にある大変に由緒正しい神社です。

相模國一之宮と称され、約1500年余の歴史を有する神社で、古くより八方除の守護神として信仰を集めてきました。

朝廷をはじめ、源頼朝・武田信玄・徳川家康などの武将も訪れています。

年の瀬も押し迫ってまいりました。皆様方も良いお年をお迎え下さい。

今号の内容はいかがでしたでしょうか。今後もお子様のキャンパスライフを身近に感じていただけるような誌面作りをめざしております。皆様のご感想などを父母と教職員の会事務局までお寄せいただければ幸いです。

e-mail : fubokyo@stf.bunkyo.ac.jp